

羽按察使源朝臣足忠云々以上三代実録
見へり本朝文粹天長元年擇國守事の
条下に陸奥出羽按察使良孝朝臣安世と
あり又弘仁格序に陸奥出羽按察使良孝
朝臣冬嗣又陸奥出羽按察使良孝朝臣定
國とあり又延喜十一年六月十二日皇子院
賜飲記に「出羽守良孝朝臣經邦とあり又
醍醐院に十九日御彩衣の末に列當大細云
陸奥出羽按察使良孝朝臣とあり陸奥詔
記に天喜五年十二月壬午解曰「諸國云糧云

士雖有微勞之名無到來之實當國人民悉
叛他國不從玄役先移送出羽國之處守出羽
辨源朝臣兼長敢無弘誠心非兼哉許若何
遂討擊云々於是朝臣止兼長朝臣之任以
源朝臣齊賴爲出羽守令共擊貞任云々因
康平六年二月廿六日壬午兼長爲從又位
下出羽守云々又左平記評判に「春日少將源
佐々出羽の西目より一寺ありけりハ奥州
の國司源中朝臣源家仁の法中よりて中朝臣
討死しあふ後ハ奥州の國司とあふ人々